

## ある海軍大佐の秘密

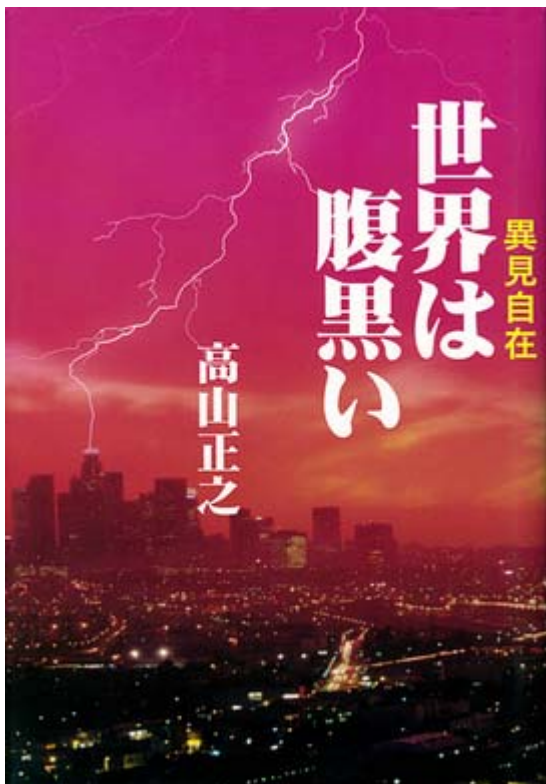
# 日本海海戦で「日進」の指揮を執った 観戦武官

司馬遼太郎の「坂の上の雲」が今、本紙で再連載されている。

今週はまだ明治二十年代。若き日の秋山真之の学ぶ海軍兵学校が江田島に引っ越したころの話だが、そういういく筋ものエピソードがやがて一本の奔流となってクライマックスを迎える。

明治三十八年五月二十七日の日本海海戦である。日本の連合艦隊はこの日、四十隻を超えるロシア・バルチック艦隊を対馬沖に迎え撃ち、沈まないのが世界の常識だった主力大型戦艦七隻と、ついでに巡洋艦も海防艦もまとめてすべて沈めてしまった。

それがいかに信じられない勝ち方だったかは、ニューヨーク・タイムズをして「ロシア艦隊で水兵の反乱が起こり、キングピンを抜いたとの情報もある」とウソ記事を書かしたことで分かる。



「世界は腹黒い（異見自在）」は高木書房から1800円で好評発売中です

司馬遼太郎はこの海戦について海軍軍令部編「明治海戦史」やロシア水兵プリボイの書いた「ツシマ」などを渉獵している。おそらく英国の観戦武官ペケナムの報告書も見たとする。

しかし、もう一人、外国人武官がもっと精密な報告書を作成していたことは知らなかった。

アルゼンチン海軍大佐、ドメク・ガルシアで、彼は「三笠」を旗艦とする第一艦隊の殿（しんがり）艦となる「日進」に乗り、東郷平八郎の敵前回頭のスペクタクルを含めた二日間の激しい戦いをくまなく目撃していた。この体験をまとめたのが今でもアルゼンチン海軍士官学校の教典として使われている「海戦記」である。

この国は海軍国家という自負があり、エスタブリッシュメントは海軍出身者が多く、偉い人はだれもがガルシア大佐の教典を読み、東郷の名にも親しんできた。

実はこの話も駐日アルゼンチン大使に教えてもらった。うれしくなってブエノスアイレスにいて大佐の孫ホラシオ

氏にも会ってきたが、大佐の著作の方も同大使の助力で翻訳され、「[アルゼンチン](#)観戦武官の記録」のタイトルで刊行されたばかりである。

大佐の記録は日本や当時の政治環境にも触れる。例えば、英米など十三カ国から四十二人も海軍武官が東郷艦隊で観戦する予定だったが、米国の三人全員を含め「四十人がコワくなって逃げた」。日本海軍のそれが当時の評価だったといった観察だ。

ただ、それほど緻密な海戦記録にも少し妙なところもある。

ガルシア大佐は第一艦隊の殿艦に乗った。陸でも海でもしんがりは旗艦に次ぐ重要な役割を持つが、同時に損な役回りでもある。

例の敵前回頭でも殿艦の番になるころには[ロシア](#)艦隊の照準も合い出して集中砲撃を食らう。

その一発が「後部砲塔に命中し、熱い細粉が司令塔のスリットに吹き込み、提督と副官は一瞬にして視力を失った…さらに同じ砲弾は艦橋も襲い、艦長と砲術士官は甲板上に投げ出された」。

艦長のけがは詳述されていないが、いずれにせよ「日進」の指揮系統は大きなダメージを受けたという記述がある。しかし「日進」は何ごともなかったようにその後の作戦をこなし、翌二十八日にはネボガトフ艦隊を捕捉する。

「東郷艦隊が北方沖合に現れたとき旗艦[ニコライ I](#)世号の艦長の戦意はまったく失われた。きのう飽き飽きするほど見せつけられた陣容であり、驚いたことにどの艦の外観も変化していなかった」（「坂上の雲」から）。

つまり「日進」の操舵と砲撃をだれが指揮したのか、それがすっぽり抜け落ちているのだ。



「新刊を祝う会」で挨拶する高山さん夫妻（10月6日、ホテルグランドヒル市ヶ谷）産経新聞から

実はこの疑問にこたえる一葉の写真とメッセージがホラシオ氏から届けられた。写真には「下賜された」菊のご紋章入りの一輪挿しと、金蒔絵の文箱が写っている。

メッセージは「被弾後、砲術士官だった祖父が実は指揮を執って戦闘を続行した」。これは観戦武官に許されない国際法違反の行動だが、「祖父は日本を知り、この戦争の意味を知っていたからこそ、信念をもって協力を踏み切った」という。

これが今まで公表できなかった理由で、明治天皇はその辺の事情を考慮して「感謝の気持ち」を贈り物に託したと解釈できる。

「わたしはこの秘話を祖父のひざで聞いた。国際法違反もそろそろ時効と考え、祖父の記録が日本で刊行される機会にお話しておきたかった」と結んでいる。

□ □

あちらの教科書を見たことがある。「日進」が[アルゼンチン](#)から日本に譲られた艦といういきさつがあり、東郷の名とともに日露戦争が二ページもさかれていた。この戦争が列強の世界支配にブレーキをかけ、「世界の流れを変えた」という記述もある。

一方、日本の教科書は「日本海でも両国艦隊が戦い、日本軍が勝った」の一行だけ。あとは幸徳秋水や内村鑑三が戦争に反対し、[与謝野晶子](#)の「君死にたまふこと勿れ」で終わる。



ガルシア大佐が国際法違反を覚悟してまでやってのけた情熱は今の日本にはどうも伝わりそうもないようだ。[異見自在 1999年02月20日 P136-138]

## 皆様良いお年をお迎え下さい。

・ひょんなきっかけで自分のブログを持つことになり、最初に考えたのがタイトルでした。いろいろ考えた末に、ファンである高山正之氏の本のタイトル「世界は腹黒い」をそっくり拝借してスタートした訳です。当初は、16世紀のスペイン・ポルトガルからはじまった白人キリスト教国家の残虐な植民地主義の実態を書いてやろうと思っていたからでした。

・しかし、いざはじめてみると、昔の世界の出来事より現実の日本の危機に関心が集中してしまい、タイトルらしいエントリーは書けずじまいで大晦日を迎えてしまいました。そこで本年のラストはタイトルにお借りした「世界は腹黒い」から、なるほどと感心したエピソードをご紹介します次第です。なお、ネットでも「高山正之コーナー」があり、貴重な話を見ることが出来ます。http://plaza.rakuten.co.jp/kaz1910032/048000

私のような素人のつたないブログにおつきあい頂き、ありがとうございました。

カテゴリ: コラム フォルダ: 指定なし   

コメント(15)

タグ: 高山正之 異見自在 世界は腹黒い 日露戦争 日本海海戦 日進 観戦武官 アルゼンチン ガルシア海軍大佐

コメント(15)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **kaigaramusi** さん

2008/12/31 07:34

おはようございます。

今年、インターネットで情報を得ることを始め最初に気になったのが、花うさぎさんでした。いろんなブログでのコメントを拝見して「この人の下で勉強したいな～」と思いました。

拙いコメントにもお返事くださり大変感謝しております。来年も、是非勉強に参加させてください。よろしく願いいたします。

よい年の瀬を、新年をお迎えてください。美味しいお酒をたくさん飲んでくださいね^^)



Commented by **花うさぎ** さん

2008/12/31 10:26

To kaigaramusiさん こんにちは。

>いろんなブログでのコメントを拝見して  
>「この人の下で勉強したいな～」と思いました。

光栄ですが少しはお役に立ちましたでしょうか？

> よい年の瀬を、新年をお迎えてください。  
>美味しいお酒をたくさん飲んでくださいね^^)

やっと大掃除も先が見えてきました。あとはフローリングにワックスを掛けるだけです。新年会では主に日本酒を頂く予定です(^ ^)。



Commented by **風来坊** さん

2008/12/31 11:16

ガルシア大佐が国際法違反を覚悟してまでやってのけた情熱に対して、明治天皇は菊のご紋章入りの一輪挿しと金蒔絵の文箱を“そと”下賜された…心ときめく話ですね。願わくば、司馬がもっと目を広げて、このことを「坂の上の雲」に書いてくれていたなら、と思わずにはられません。もっとも司馬のことだから、たとえ承知していても書かなかった

かも知れませんが…。

2008/12/31 12:32

花うさぎさんからは、今年も連日、数多くの勉強をさせてもらいました。ありがとうございます。

不精者の私は、最近はずっと情熱が薄れてきたようで、27日が“投稿納め”でした。これからもマイペースで行きたいと思っています。

どうぞ、良いお年を！！



Commented by **花うさぎさん**

To 風来坊さん こんにちは。

>…心ときめく話ですね。

そうですね。私も数年前にはじめて見たときはびっくりし感動しました。[アルゼンチン](#)は戦艦調達を急ぐ帝国海軍にたいして発注済みの二隻を譲ってくれたこともありました。

>願わくば、司馬がもっと目を広げて、このことを「坂の上の雲」に書いてくれていたなら、と思わずにはられません。

本当にそう思いますね。日露戦争までの日本は善、直後の日比谷焼き討ち事件以降の日本は悪、という司馬史観ですが、残念ですね。

>花うさぎさんからは、今年も連日、数多くの勉強をさせてもらいました。

とんでもないです。大先輩からそういわれると恐縮してしまいます。どうぞ良いお年をお迎え下さい(^^)。



Commented by **花うさぎさん**

・追記1

2008/12/31 12:36

坂の上の雲について、西村慎吾の時事通信から引用します(11月26日)

そして、翌十一月二十六日の今日は、明治三十七年に三千名の白樺隊が旅順要塞に銃剣で突撃して消滅した日である。

この白樺隊と呼ばれた特別部隊は、中村歩兵第二旅団長の意見具申により、夜間に刀と銃剣で旅順の敵陣に攻め込むために編成された。目印の為に全員白樺をかけていた。

しかし、旅順要塞は鉄壁の堅城であった。

レーニンが、旅順はクリミア戦争の帰趨を制したセバストーポリ要塞を六つ集めたほどの堅固な要塞だと書いたとおりであった。

果たして、この日の朝八時に始まった第一、第九及び第十一の各師団による旅順要塞への第三回総攻撃は、ことごとく失敗に終わった。

そして、この報告を受けた乃木希典軍司令官は、遂に白樺隊に攻撃を命令する。国家存立のためには、如何なる犠牲を払おうとも、旅順を陥落せしめねば成らないと言う乃木軍司令官の決意が白樺隊への命令となった。

集合した白樺隊の写真が残っている。死を数時間後に控えた彼らの姿を見ると、私は言いようのない感動を受ける。こみ上げてくるような慟哭である。目頭が熱くなることもある。この写真は、私がかつとも衝撃を受ける写真である。

そして、旅順要塞陥落に際して、白樺隊が如何なる役割を果たしたかを振り返るとき、日本人は、決して、この十一月二十六日を忘れてはならないと思うのである。

確かに、司馬遼太郎氏は「坂の上の雲」を書いた。これは同氏の功績であることは認める。そして、この本はよく読まれた。しかし、よく読まれたが故に、日露戦争の実相を日本国民の目から隠すこととなった。

何故なら、司馬遼太郎氏は、「坂の上の雲」で、第三軍司令官の乃木希典を無能の司令官とし、白樺隊の突撃を司令官の無能による兵の無益な消耗と書いたからである。

従って、この「坂の上の雲」によって、日本人は、武士道に生きたもつとも崇高な武人への敬仰の念と身を棄てて国家を救った英雄を奪われたと言ってもよい。

この民族の叙事詩を取り戻すためにも、白樺隊が旅順要塞に突撃した十一月二十六日を忘れてはならないと思う。



Commented by **湯煙の中一杯** さん

2008/12/31 17:55

本年は花うさぎさんのおかげで大変勉強になりました。ありがとうございます。

来年も本年同様宜しくお願いいたします。良いお年を。



Commented by **RAM** さん

2008/12/31 18:30

花うさぎ様、  
もう数時間すると、鐘の音が聞こえ出すのでしょうか。  
色々あった今年でしたが、来年は、もっとあります。

...

まあ、それでも、やっていくしかありませんね。

本年も色々お世話になり、有り難うございました。  
来年も又、よろしくお願い致します。

良いお年をお迎ください。



Commented by **ぱんたか** さん

2008/12/31 19:16

花うさぎ 様

この一年、実に多くの勉強をさせてもらいました。  
来年も宜しくお願い致します。

皆さまどうぞよいお年を。

追伸

パイオニアMacが起動しなくなりました。  
多分HDDが壊れたのだと思います。  
また入院させねばと思っております。



Commented by **花うさぎ** さん

2008/12/31 20:21

To 湯煙の中一杯さん こんにちは。

こちらこそ、いろいろありがとうございました。

どうぞ良いお年をお迎え下さい。



Commented by **花うさぎ** さん

2008/12/31 20:24

To RAMさん こんにちは。

>色々あった今年でしたが、来年は、もっとあります。

来年は勝負の年になりそうですね。国籍法ではいろいろご教示頂き感謝しております。RAMの法案全文は**法務省**の改正案とともに全部プリントアウトして比較しようと言うところで時間切れになってしまいました。時間を見つけて勉強します。

RAMさんも良いお年をお迎え下さい。



Commented by **花うさぎ** さん

2008/12/31 20:28

To ぱんたかさん こんにちは。

> 皆さまどうぞよいお年を。



ばんたかさんも良いお年を(^ ^)。

2008/12/31 22:35

> パイオニアMacが起動しなくなりました。

あら、ひょっとしたら電池切れの可能性もありますね。お店が見つければよいですが。私もパーツ類はありますので、ご連絡頂ければ何とかかなと思います。



Commented by **sakurara** さん

花うさぎさん、こんばんは。

2009/01/01 00:05

今年は花うさぎさんの祝！ブログ開設で、いろんな事を勉強することができました。ありがとうございました。

今日の高山正之氏の「異見自在」というのも初めて知りました。産経時代が「異見自在」で、新潮が「変見自在」なんですね。来年もまたブログの更新を楽しみにしています。

来年が今年よりも少しでも明るい日本になっていますように！

PS. お時間のあるときにでも泣いて笑ってください☆

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm5653104>

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm5648436>



Commented by **花うさぎ** さん

To sakuraraさん

2009/01/02 00:44

あけましておめでとうございます。

> 今日の高山正之氏の「異見自在」というのも初めて知りました。  
> 産経時代が「異見自在」で、新潮が「変見自在」なんですね。

そうです。東京で夕刊があったときの連載です。

> 来年が今年よりも少しでも明るい日本になっていますように！

本当にそう願いたいものです(^ ^)。ビデオのご紹介感謝です。



Commented by **caneton** さん

花うさぎ様

明けましておめでとうございます。ROMLしておりましたが、初めて書き込みさせていただきます。

同居していた祖父が、日露戦争当時海軍経理部で、海軍横須賀工廠に勤務していた関係で、小さい頃よく横須賀の三笠公園に連れて行ってもらったり、横須賀工廠謹製の色々な海軍グッズ(ベルトのバックルや、戦艦三笠モデルの文鎮など)を貰ったりして、日本の偉業についてお話を聞かされていました。

> 東郷の名とともに日露戦争が二ページもさかれていた。この戦争が列強の世界支配>にブレーキをかけ、「世界の流れを変えた」という記述もある。

>

> 一方、日本の教科書は「日本海でも両国艦隊が戦い、日本軍が勝った」の一行だけ。あとは幸徳秋水や内村鑑三が戦争に反対し、[与謝野晶子](#)の「君死にたまふこと勿れ」で終わる。

世界の歴史上のきわめて重要な出来事がこの記述とは情けない限りです。

大東亜戦争の真実とともに、しっかりと教科書に記述されることを望んでやみません。ネットの持つ実社会に与える影響力は加速度的に増加していることをひしひし感じられる今日この頃、花うさぎ様が、このようなトピックをどんどん広めてくださる事を願っております。

Commented by **花うさぎ** さん

2009/01/02 06:37



To canetonさん はじめまして。

>日本の偉業についてお話を聞かされていました。

それは素晴らしい経験をお持ちですね。現在見ることの出来る復興された三笠は、東郷元帥を尊敬する[アメリカ](#)・チェスターニミッツ提督の尽力があったからですが、そういう後日談も含めて我々は近現代史をもっと勉強し直さなければなりませんね。

>世界の歴史上のきわめて重要な出来事がこの記述とは情けない限りです。

>大東亜戦争の真実とともに、しっかりと教科書に記述されることを望んでやみません。

本当にその通りです。その意味で田母神さんの主張が広く国民に理解されるようバックアップをしていかねば、と思います。